

川崎製鉄株式会社千葉製鉄所納
175t レードルクレーン完成
175 t Ladle Crane Completed

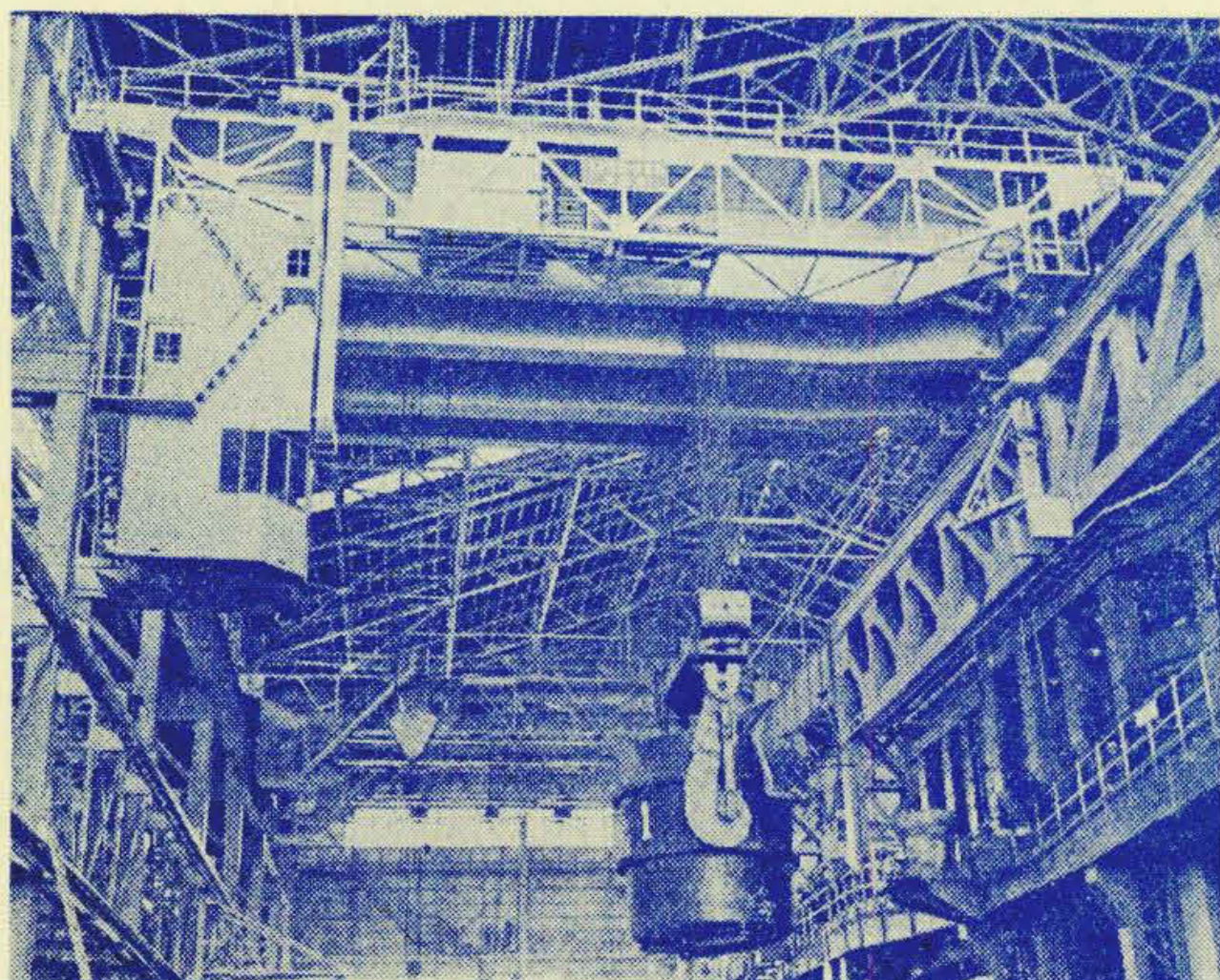
本レードルクレーンは終戦後日立製作所亀有工場で製作した八幡製鉄納 165 t 2 台，富士製鉄(広畑)納 140 t 1 台に引続き 4 台目のモルガン形レードルクレーンで，巻上荷重 175 t，径間 20 m という我国に於ける記録製品である。

その仕様の主なものは次の通りである。

	主 巻	補 巻
巻上荷重 (t)	175	35
巻上揚程 (m)	10.5	16.5
巻上速度 (m/min)	2.5	7
巻上用電動機 (kW)	125	60
横行速度 (m/min)	25	40
横行用電動機 (kW)	40	15
径 間 (m)	20	
電 源	400 V 50~	
走行速度 (m/min)	55	
走行用電動機 (kW)	125	
走行軌条 (kg/m)	74	

本機の特長とする所は，主クラブ，補クラブが独立したガーダ上を単独に運転することができるもので

- (1) クラブフレーム，補クラブガーダ等には特に溶接構造を採用して重量の軽減を計っている。



第1図 175t レードルクレーン
Fig.1. 175 t Ladle Crane

- (2) 走行長軸にはユニバーサルカップリングを使用してアイドルギヤの数を減らした。これによる走行の寸行運転が静かになった。
- (3) 主フックにはラミネート式フックを採用した。
- (4) 車輪はタイヤを廃めて一体物の鋳鋼とし踏面は表面硬化処理を施した。
- (5) 交流電源であるが操作回路を直流とし運転操作性を向上した。また主巻下げには交流ダイナミックブレーキを採用したため全荷重巻下げ時に於ても特に低速度巻下げが可能である。

丸の内をかざる二大新建築（鉄道会館，東京都庁舎）に日立エレベータ及びエスカレータ採用さる

Hitachi Elevators and Escalator will be in Service in Two Magnificent Buildings at Marunouchi

近代建築物の高層化に伴い輸送能率の向上を期するため縦の交通機関としてのエレベータ及びエスカレータの需要は日増しに増大して来た。日立製作所に於ては，伝統を誇る技術陣を以つて鋭意それらの性能の向上，技術の進歩並びに生産増強に邁進しているが，既に新丸ビル，呉服橋ビル等最高級のを製作し好評を博している際今回東京駅八重洲口に建築開始された鉄道会館及び丸の内東京都庁舎納のエレベータ及びエスカレータを大量に受注した。仕様は下記の通りで鉄道会館納のエレベータは戦後の記録品であり既に設計に着手した。

鉄 道 会 館 納

- (1) Aバンクエレベータ 3台
積 載 量..... 1,600 kg
定 員..... 17名
速 度..... 150 m/min
直流可変電圧オーダリシグナルコントロール
電 動 機..... 30 kW
- (2) Cバンクエレベータ 2台
積 載 量..... 1,500 kg
定 員..... 17名
速 度..... 60 m/min
交流二速度デュアルコントロール
(1台は 45 m/min カースイッチコントロール)

- (3) Bブロックエスカレータ 2台
- HE 800 型..... 1.5 人立
- 速 度..... 27 m/min
- 輸 送 人 員..... 1 hr 約 5,000 人
- 床 高..... 4,200 mm
- 電 動 機..... 7.5kW

Aバンクエレベータ3台はその速度大いさで戦後の記録品で直流電動機等新設計である。

エスカレータは先に西武鉄道池袋デパート納 HE 1200 型 2 人立 2 台を受注し、製作に専念しているが、これは戦後の新設計で記録品である。今回の鉄道会館納の 2 台は 1.5 人立であるが新設計の縦型トラクションマシンを使用する。

東京都庁舎納エレベータ 4 台

- 積 載 量..... 1,100 kg
- 定 員..... 13名
- 速 度..... 150 m/min
- 直流可変電圧オーダーリングナルコントロール
- 電 動 機..... 20 kW

で上記に次ぐ記録品である。

日立テレビジョン用受像管 14 CP 4 (14"), 17 BP 4-A (17") 量産化さる

Hitachi Picture Tubes for Television, 14 CP 4 (14") and 17 BP 4-A (17"), Now in Mass Production

日立製作所茂原工場は従来テレビジョン用受像管として 180 QB 4 (7"), 12 LP 4-A (12") 等を量産中であるが、この程更に 14" の 14 CP 4 及び 17" の 17 BP 4-A の試作を完了し、既に量産に移行した。

14 CP 4 及び 17 BP 4-A は受像面が角型の大型受像管であり、電子ビームの集束、偏向はともに電磁型で集

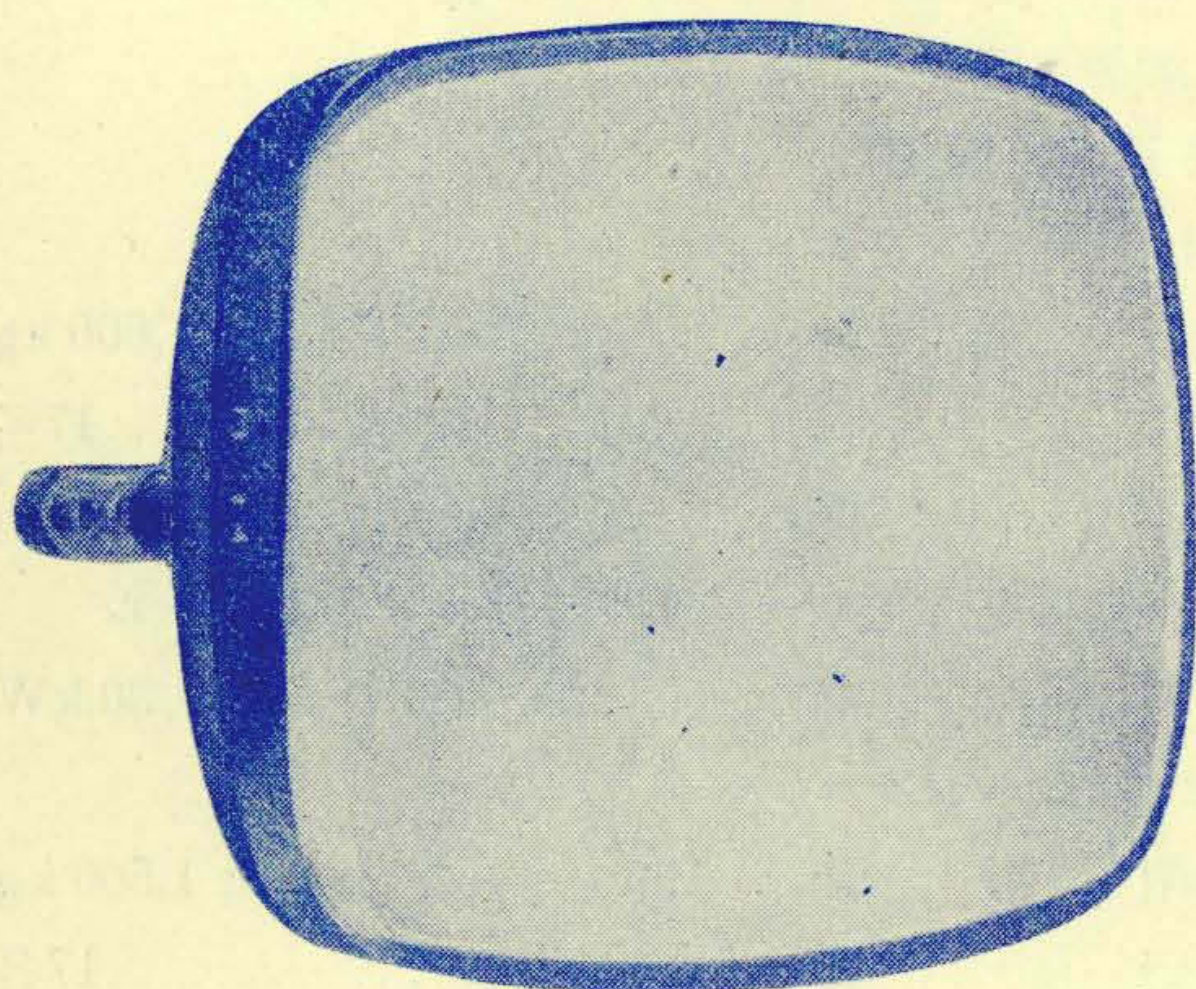
第 1 表 日立 14 CP 4, 17 BP 4-A 定格表

Table 1. Standard Ratings of Hitachi 14 CP 4, 17 BP 4-A

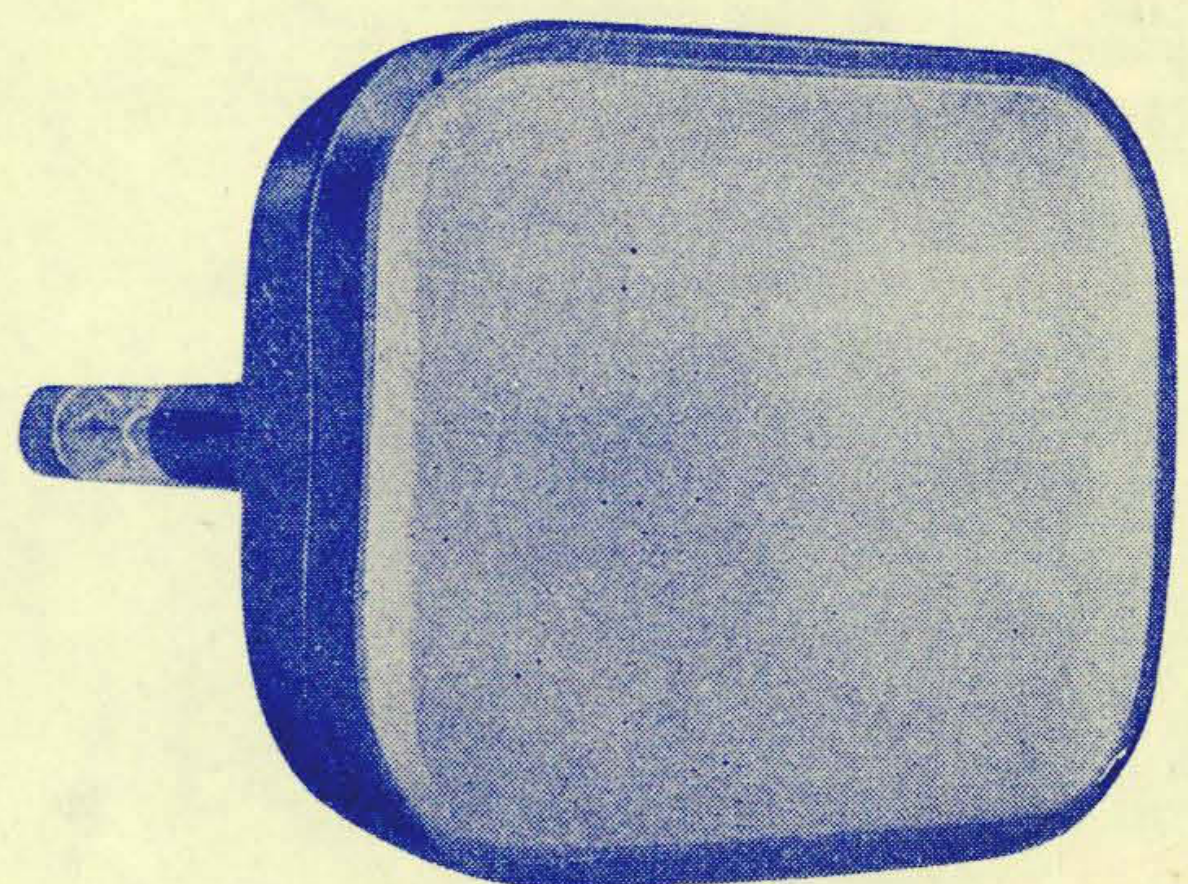
名 称	14CP4	17BP4-A		
用途	テレビ受像用電磁型 (イオントラップ付)	テレビ受像用電磁型 (イオントラップ付)		
集束方式	電磁型	電磁型		
偏向方式	電磁型	電磁型		
全 長 (mm)	425±10	489±10		
管球最大管径部 (mm)	348±3	423±3		
管球頸部直径 (mm)	36.5±1.6	36.5±1.6		
螢 光 体	白	白		
残 光	普通	短		
偏 向 角	70°	70°		
口 金	デュオデカル5ピン	デュオデカル5ピン		
静電容量	第1格子—他電極 (μF)	6	6	
	陰 極—他電極 (μF)	5	5	
	外部導電膜—陽極 (μF)	750~2,000	750~2,000	
定 格	ヒ ー タ 電 圧 (V)	6.3	6.3	
	ヒ ー タ 電 流 (V)	0.54~0.66	0.54~0.66	
	最大陽極電圧 (V)	14,000	16,000	
	最大第2格子電圧 (V)	410	410	
	最大第1格子電圧 (V)	-125	-125	
使 用 例	陽 極 電 圧 (V)	12,000	12,000	14,000
	第2格子電圧 (V)	300	300	300
	第1格子遮断電圧 (V)	-33~-77	-33~-77	-33~-77
	集束磁界 (AT)	約 580	約 580	約 620
	イオントラップマグネット (ガウス)	約 35	約 35	約 40

束コイル、偏向コイルにより行われる。受像面には高電圧で発光能率のよい螢光体を使用しているため、非常に鮮明な受像が得られる。又フィルターガラスを用いて画像のコントラストを一段と向上させている。

- 尚 14 CP 4 及び 17 BP 4-A の主な特長を上げると、
- (1) 角型ガラスを用いてあるため受像面の有効率が大きい。
 - (2) 画像が全面均一で鮮明である。



第2図 日立テレビ用受像管 17 BP 4-A
Fig. 2. Hitachi Television Picture Tube 17 BP 4-A



第3図 日立テレビ用受像管 14 CP 4
Fig. 3. Hitachi Television Picture Tube 14 CP 4

(3) 高電圧で発光能率のよい螢光体を使用している。

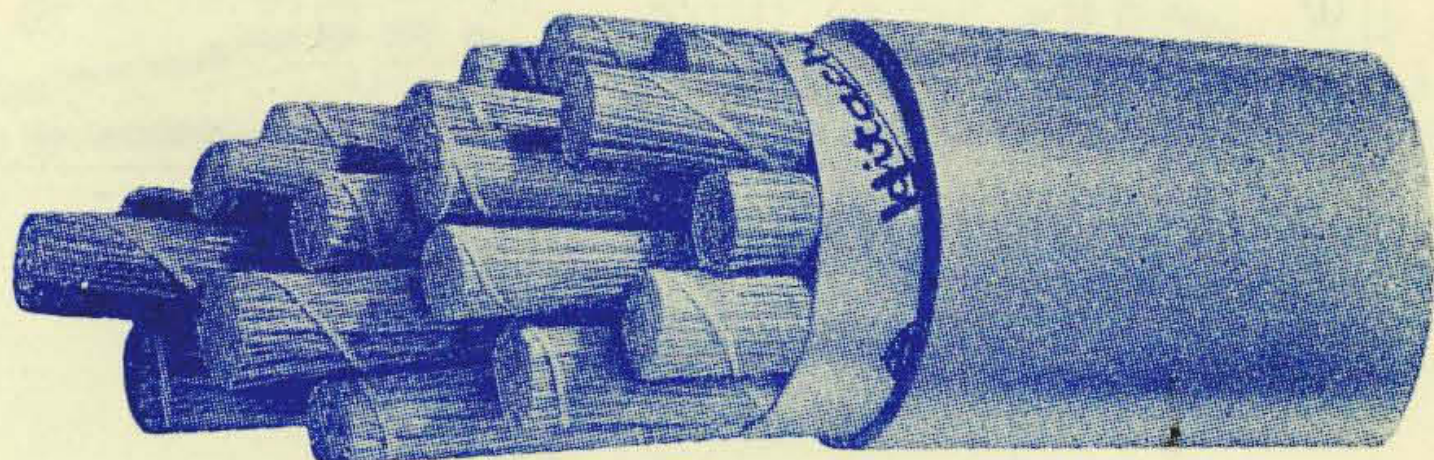
(4) 外国品との差換えが可能である。

尙 12" 受像管は最近 NHK に納入したもののうち 10 箇が厳密に試験された結果好評を得た。他の品種もそれぞれ NHK その他各所のテレビジョンセットメーカーに納入して好評を得ている。

尙一般需要家の要望に応ずるべく 7" と 12" の中間に行く 10" 受像管も近く完成する。これは工業用テレビジョンにも広く使用されるものである。

**0.5 mm×1,800 対市内星ユニットケーブル
0.5 mm×1,800 Pairs City Cable Unit
Type Star Quadded**

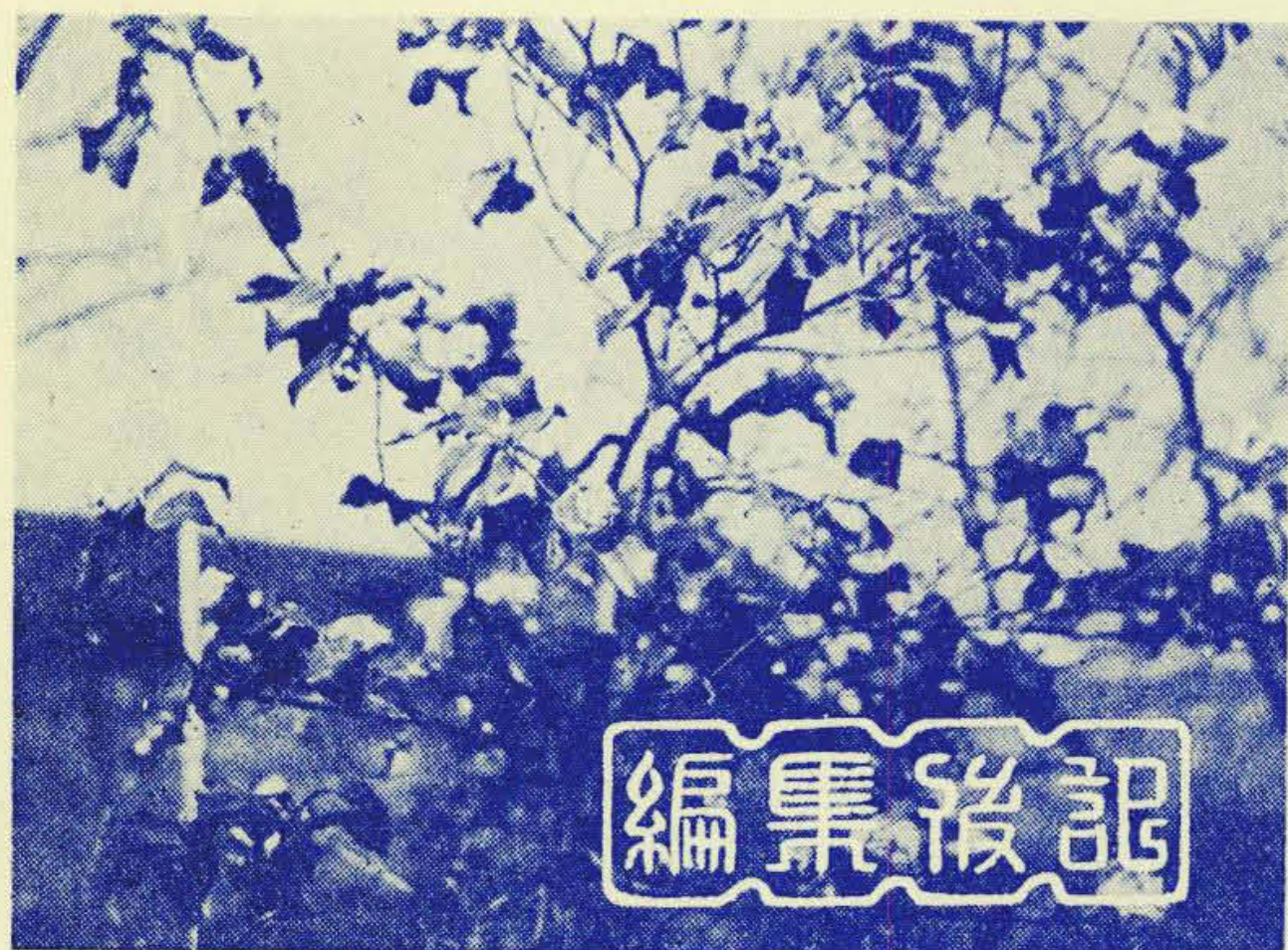
最近電話加入者の増加に伴い、回線収容能力の大きい



第4図 0.5 mm×1,800 対市内星ユニットケーブル
Fig. 4. 0.5 mm×1,800 Pairs City Cable Unit
Type Star Quadded

ユニットケーブルが増加して来ている。

日立製作所日立電線工場に於てはユニットケーブル製造設備の新鋭機の増設を行い、多対物ユニットケーブルの生産に成果を挙げて来たが、今度電信電話公社桐生電報電話局納 0.5 mm×1,800 対市内星ユニットケーブル 1,049 m を短納期にも拘わらず完納した。



暖冬異変変じて一夜にして大雪となり、連続的な降雪に再び寒波来襲、全国的な感冒流行は全学童休校という事態を惹起したが、この春の異変政、官、財界への疑獄事件にまで発展、目下国会を震撼させているのは遺憾千万である。

「...同じ運命によつて終戦をむかえた日独国民がこの10年間に一体何故こんなに大きな開きが出来てしまつた

か」と本号一家一言欄に昨冬西独から帰朝されたばかりの三島徳七先生が慨嘆されているが、我国現状と比較し再読翫味して頂きたい「水五訓」である。

なお本号には、巻頭に北海道電力班溪 P.S. 納入の日立製「カプラン水車の据付方法に就いて」同社小山田工務部次長より玉稿を頂いたが、「発注後 6 箇月でスピードリングを納入、9 箇月で水車本体の製作完了という破天荒な突貫工程は、多年豊富な経験と優秀なる技術を有する日立に特令発注する以外に方法なしと考へ、据付工事も併せて発注した。」と裏書された日立技術の成果の発表である。

亦「日立超同期電動機」(本号表紙写真参照)もその制動機構に新しい構想と特色ある設計を誇り秩父セメント並びに日立セメント両社に納入、今後の進出が期待されるもので、「日立 HU-9 型高性能電子顕微鏡」(20 頁の長論文)とともに本誌の二大圧巻であろう。

この他高橋理學博士「電気絶縁油の選択」、「可鍛鑄鉄に及ぼす原材料の影響」など異色ある論文 12 篇を揃へ、毎月好評を博しているが、特に Vol. 36, No. 1 (新年号)は未だに各地より大部数の注文殺到、その他毎号大增刷して御期待にこたえている始末である。併せ深謝申上げたい。(M. Terasawa)

<p>第 36 卷 日立 評論 第 3 号</p>				<p>編集兼発行人 長谷川 俊 雄</p>
<p>禁 無 断 昭和 29 年 3 月 25 日 印刷 転 載 昭和 29 年 3 月 30 日 発行</p>				<p>印 刷 人 榊 原 雄 一</p>
				<p>印 刷 所 新大東印刷工芸株式会社 東京都千代田区神田神保町 1 の 52</p>
誌	誌 数	定 価	送 料	<p>発行所 日立評論社 東京都千代田区丸ノ内 1 丁目 4 番地 振替口座東京 71824 番 電話千代田 (27) { 111-(10), 211-(10), 311-(10) { 1111-(10), 1211-(10), 1311-(10) 会 員 番 号 A 208062 番</p>
	普通号及び 特 集 号 1 冊分	¥ 100	¥ 12	
	6 冊分 (4 割引)	¥ 430	(送料共) 但し別冊 特集号を 含まず	
12 冊分 (4 割引)	¥ 840			

広告取扱店 東京都中央区新富町 2 丁目 16 番地 電話築地 (55) 9028 番 広 和 堂